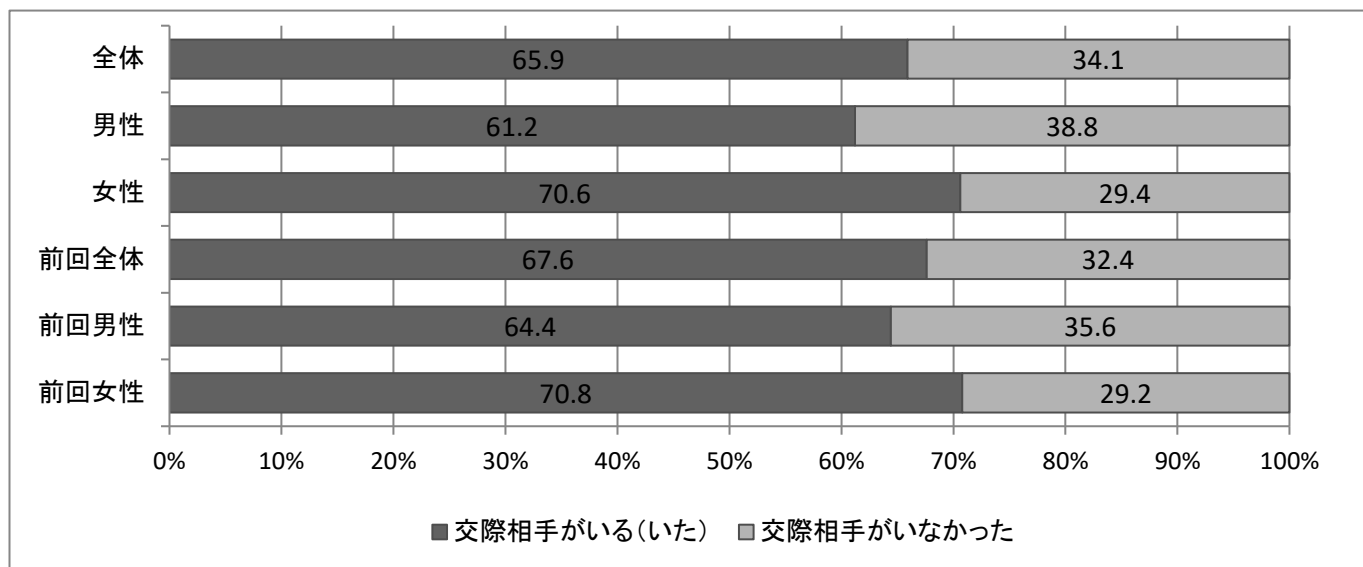


V 交際相手からのDVに関する認識と被害経験、被害を受けたときの対応

(問) これまでに交際相手がありましたか。

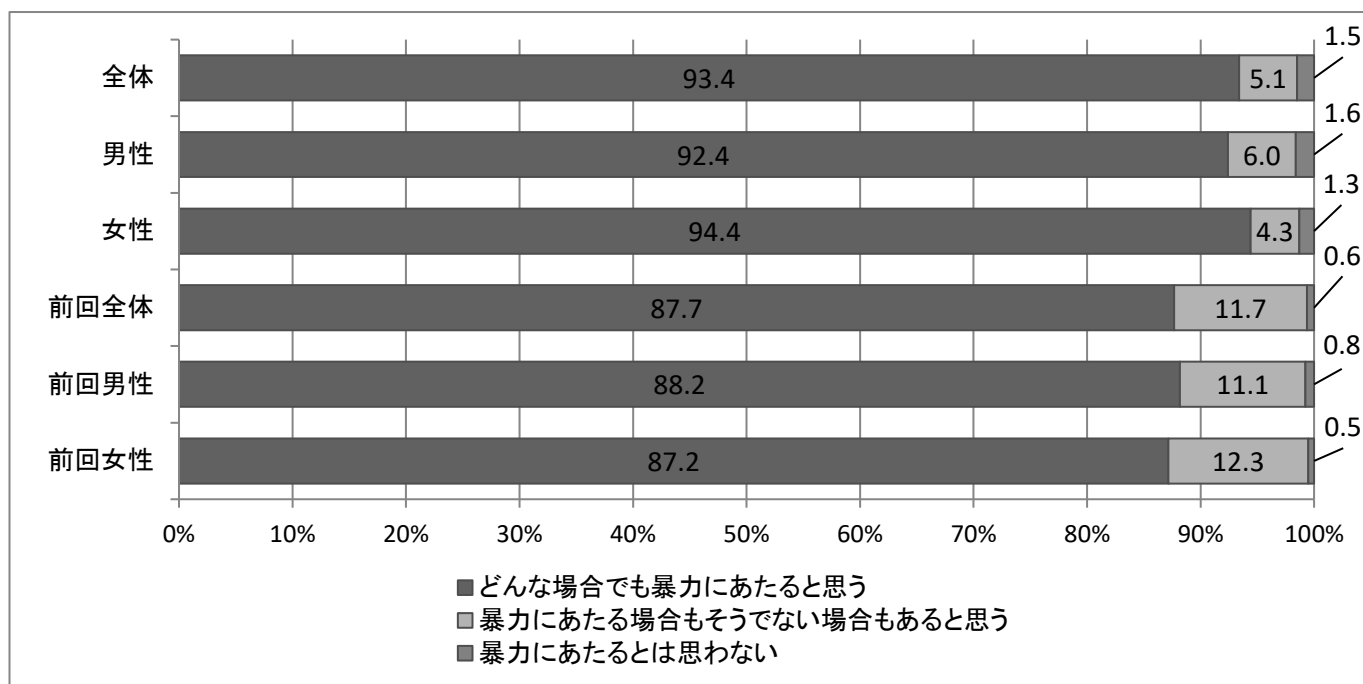


【どのような行為を暴力だと思うか】

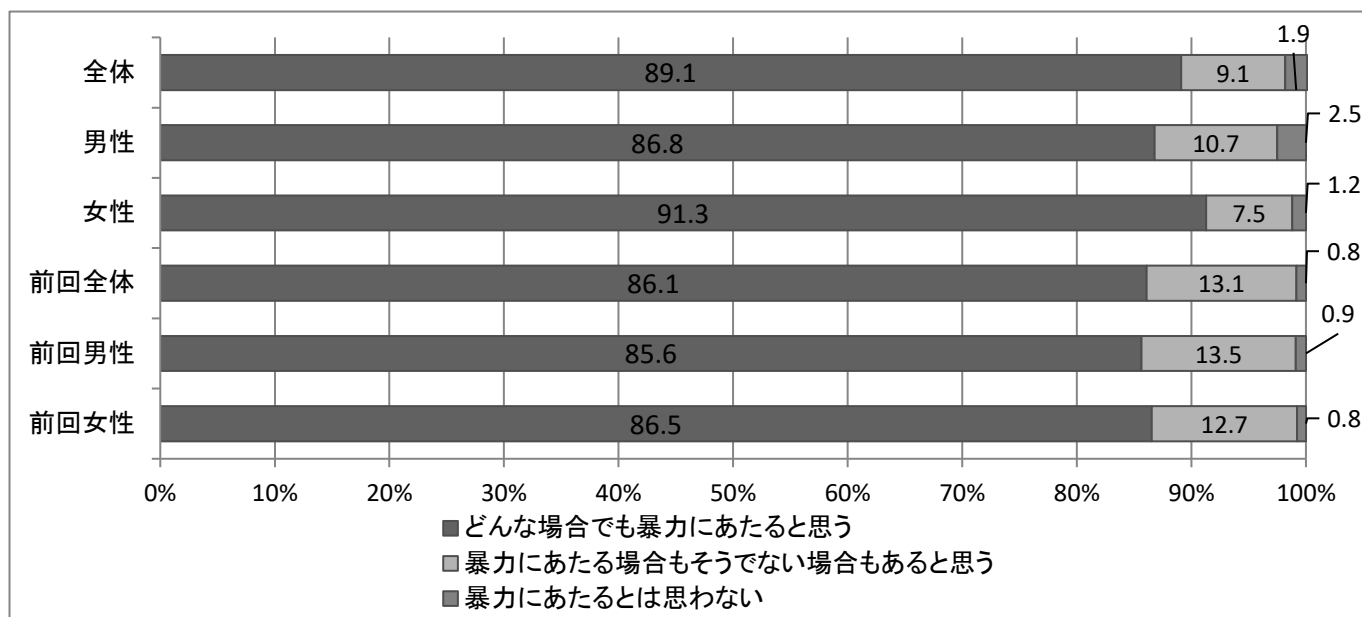
「どんな場合でも暴力に当たると思う」が8割以上のものは、「手でぶったり、足で蹴る」「物を投げつける」「殴るふりをして、脅す」「人格を否定するような暴言など相手の嫌がることを言い続ける」「嫌がっているのに性的な行為を強要する」「避妊に協力しないし、責任もとらない」「携帯電話のカメラで裸などの写真を撮られ、それを使って嫌な思いをさせられる」「携帯電話を故意に壊されたり、データを破壊される」で、7割以上のものは、『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』などと言う」「大声でどなる」「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」となっている。5割未満のものはなかった。

(問) 次のことが交際相手間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

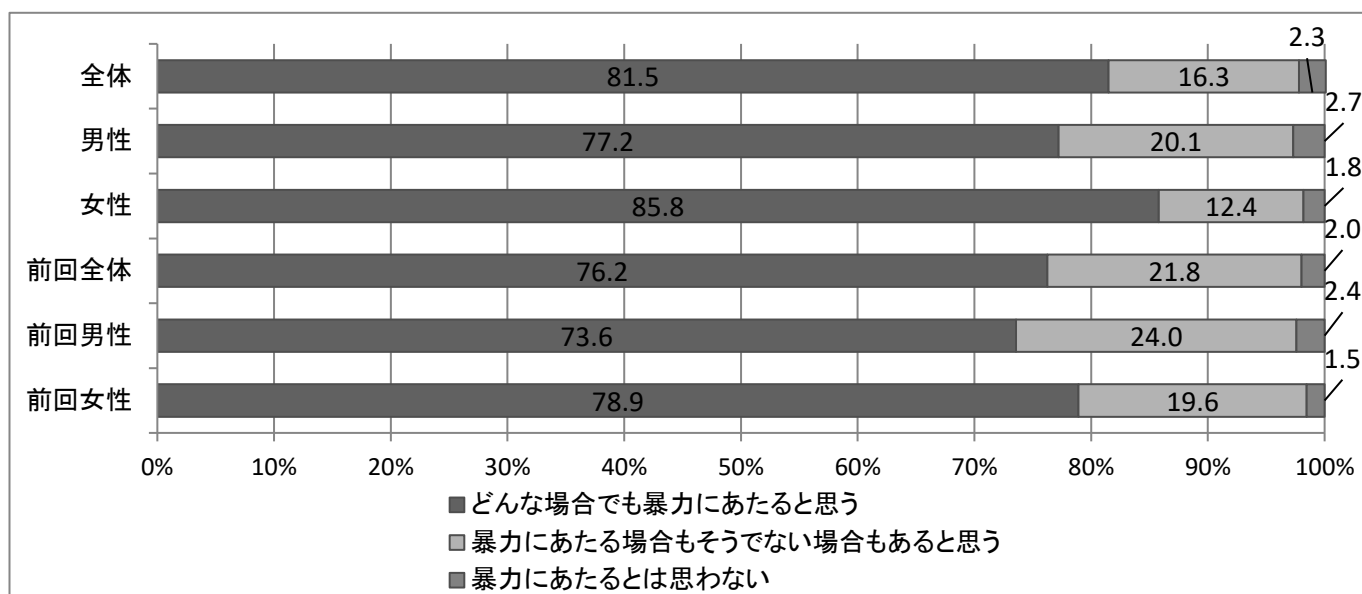
A 手でぶったり、足で蹴る



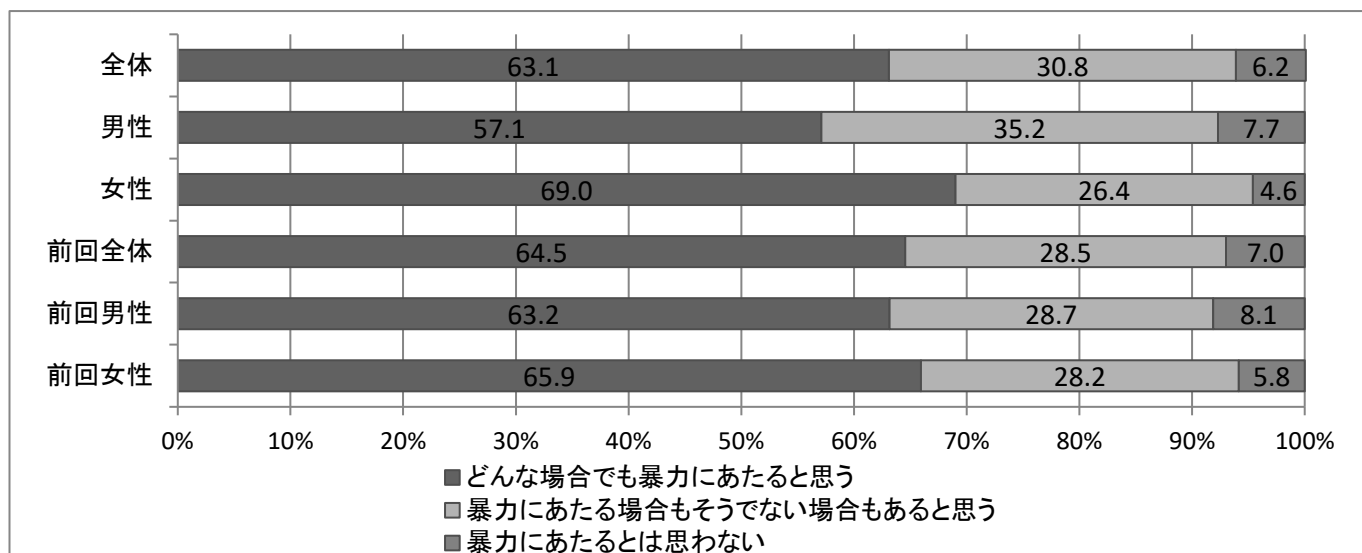
B 物を投げつける



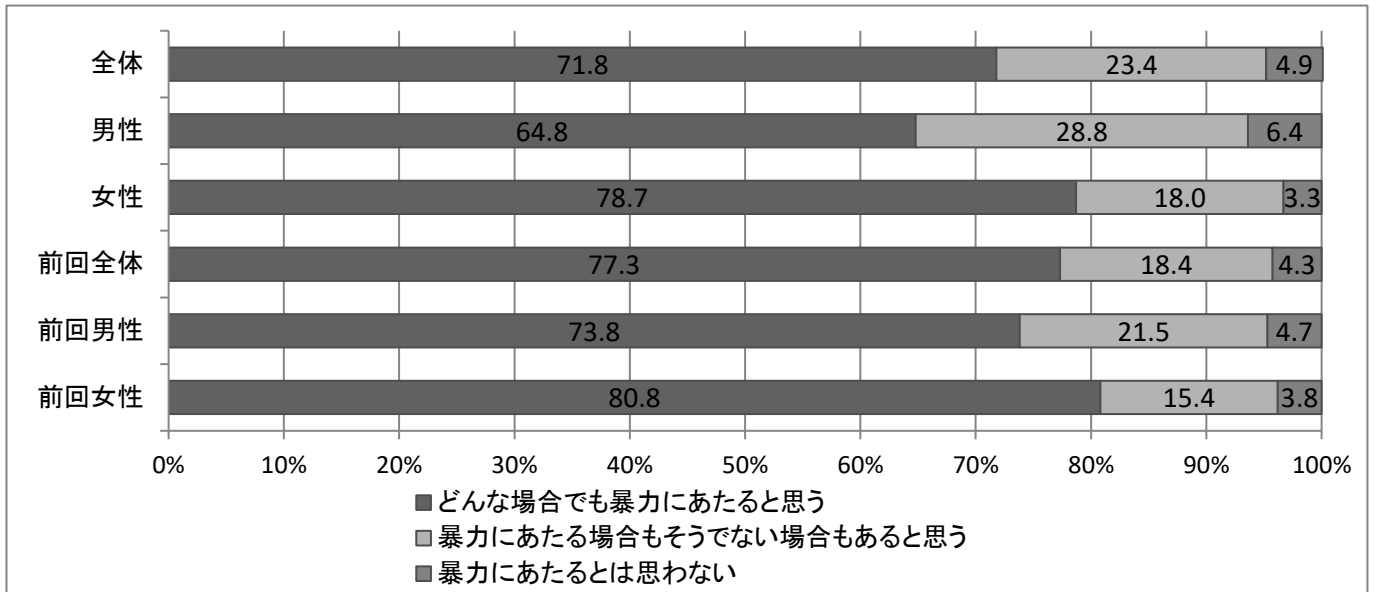
C 殴るふりをして、脅す



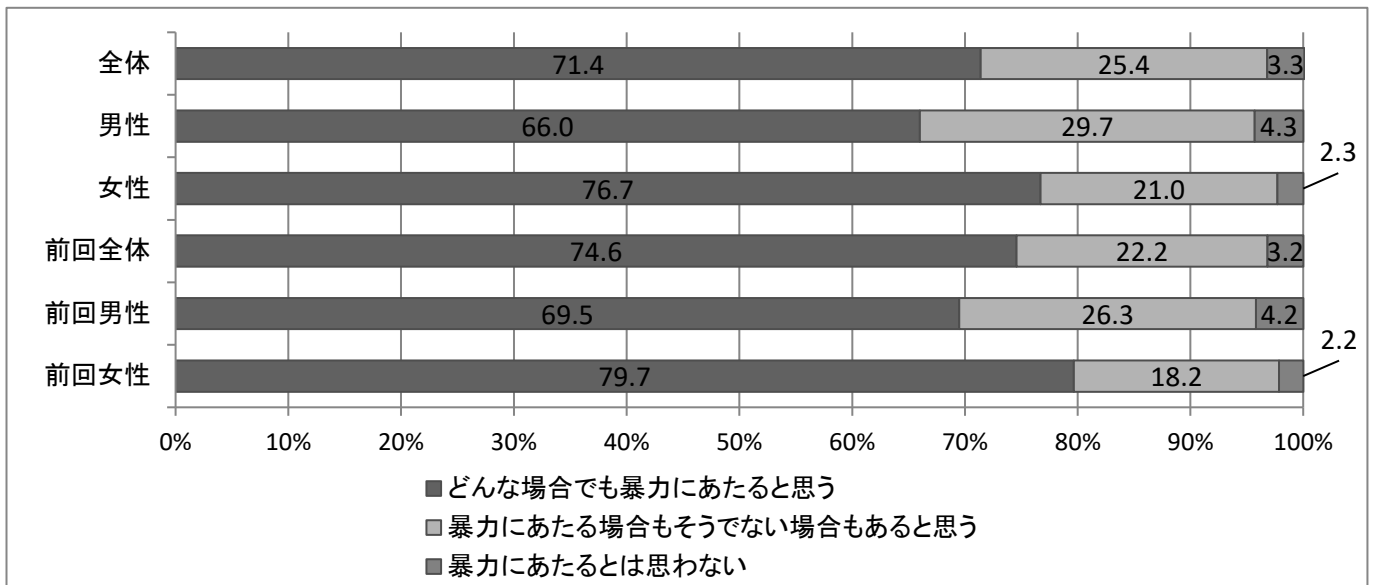
D 何を言っても長期間無視し続ける



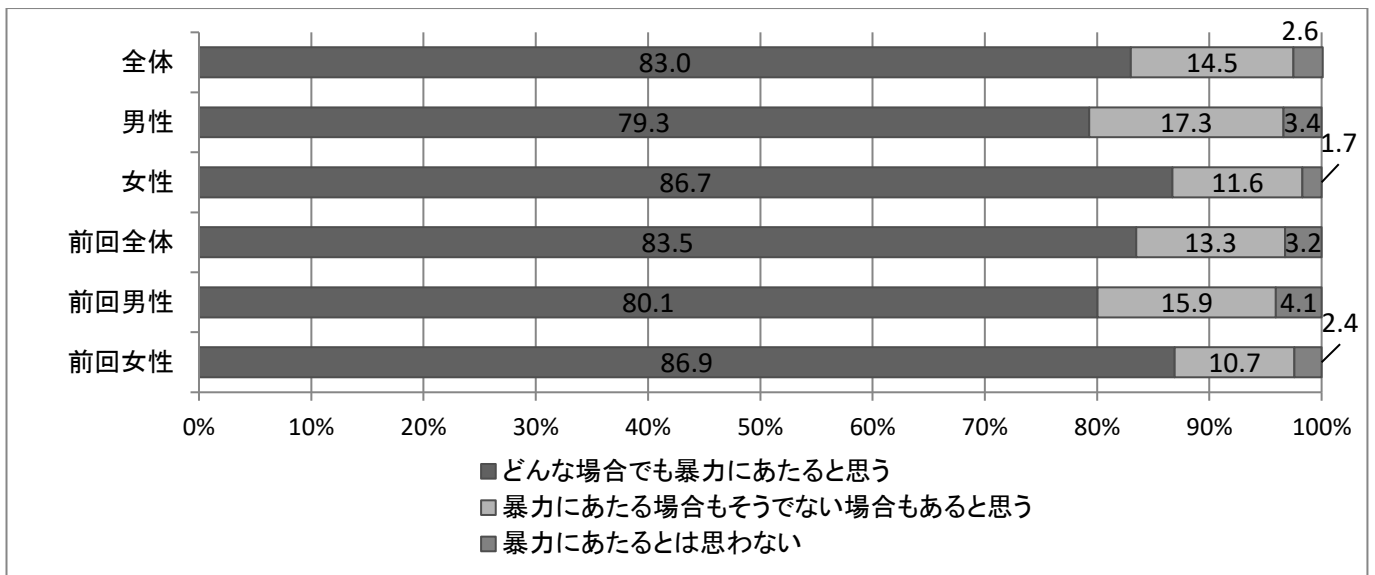
E 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」などと言う



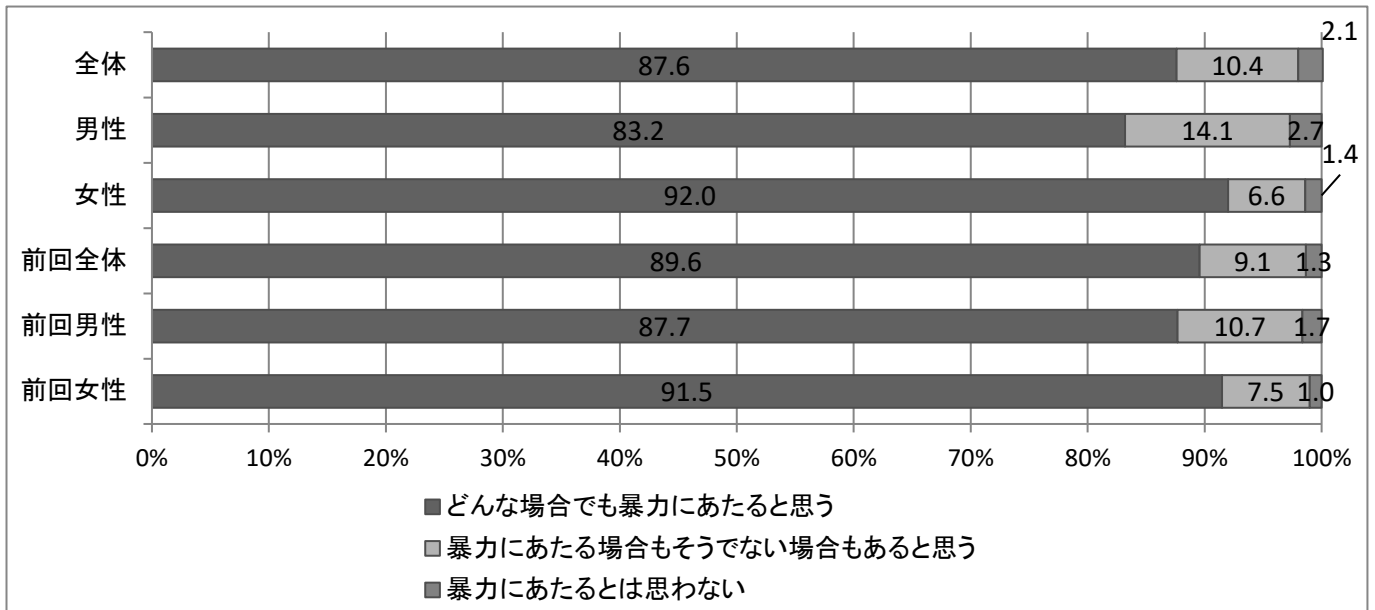
F 大声でどなる



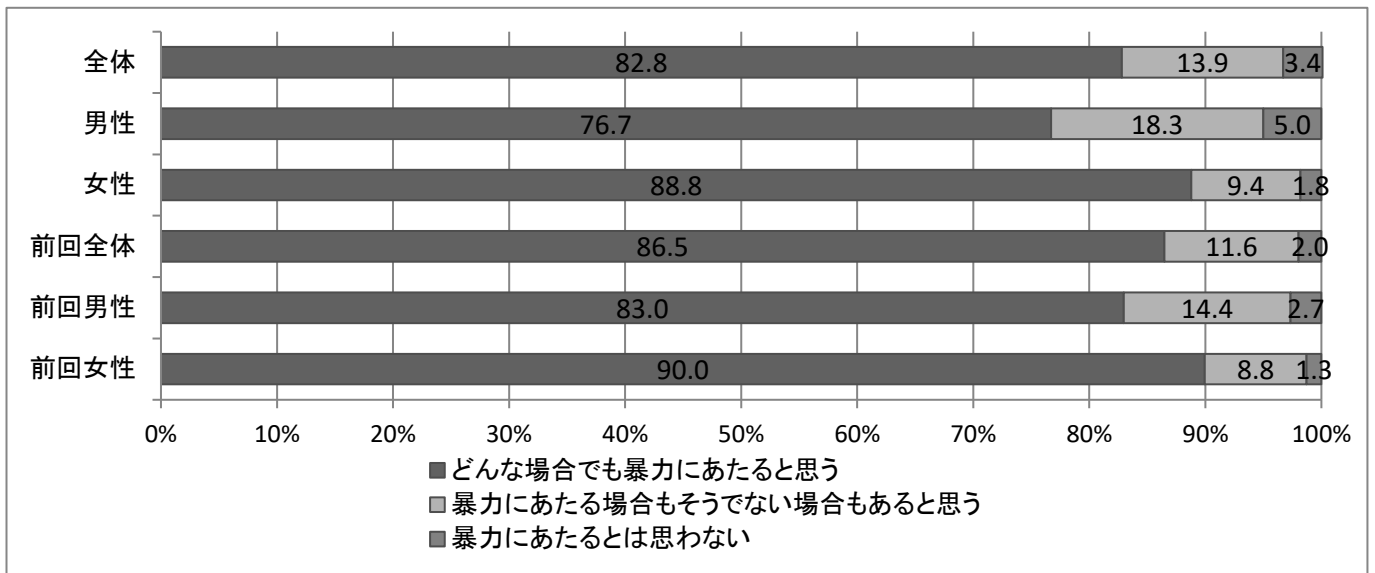
G 人格を否定するような暴言など相手の嫌がることを言い続ける



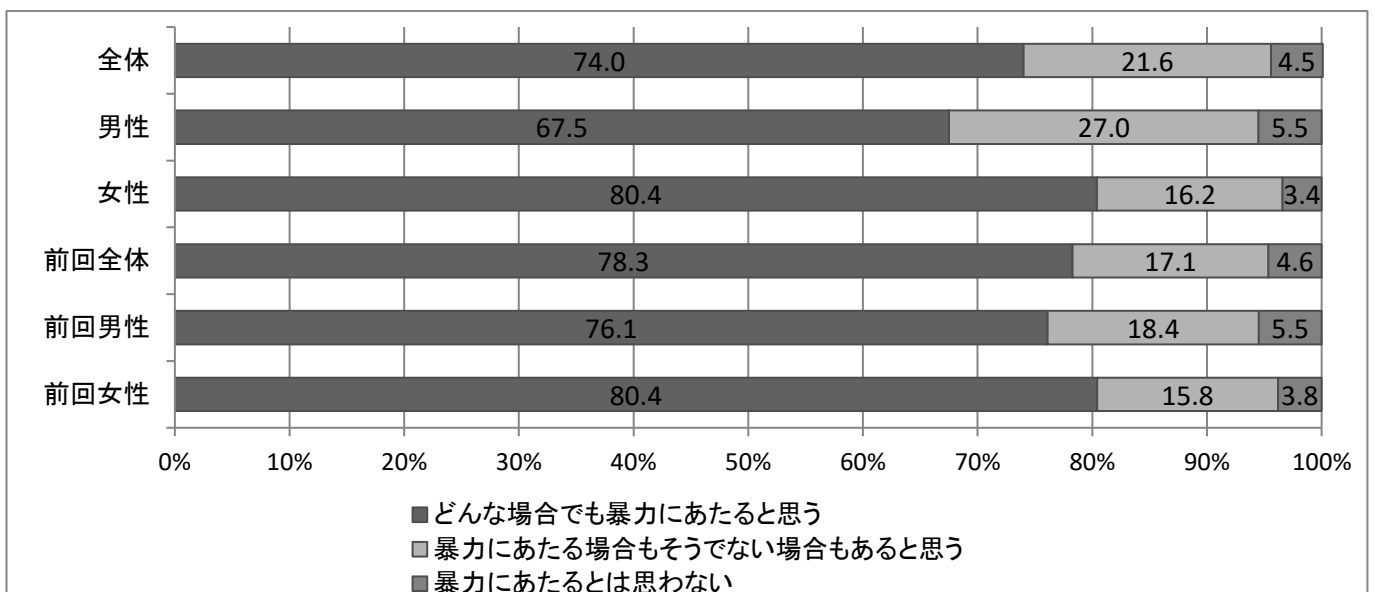
H 嫌がっているのに性的な行為を強要する



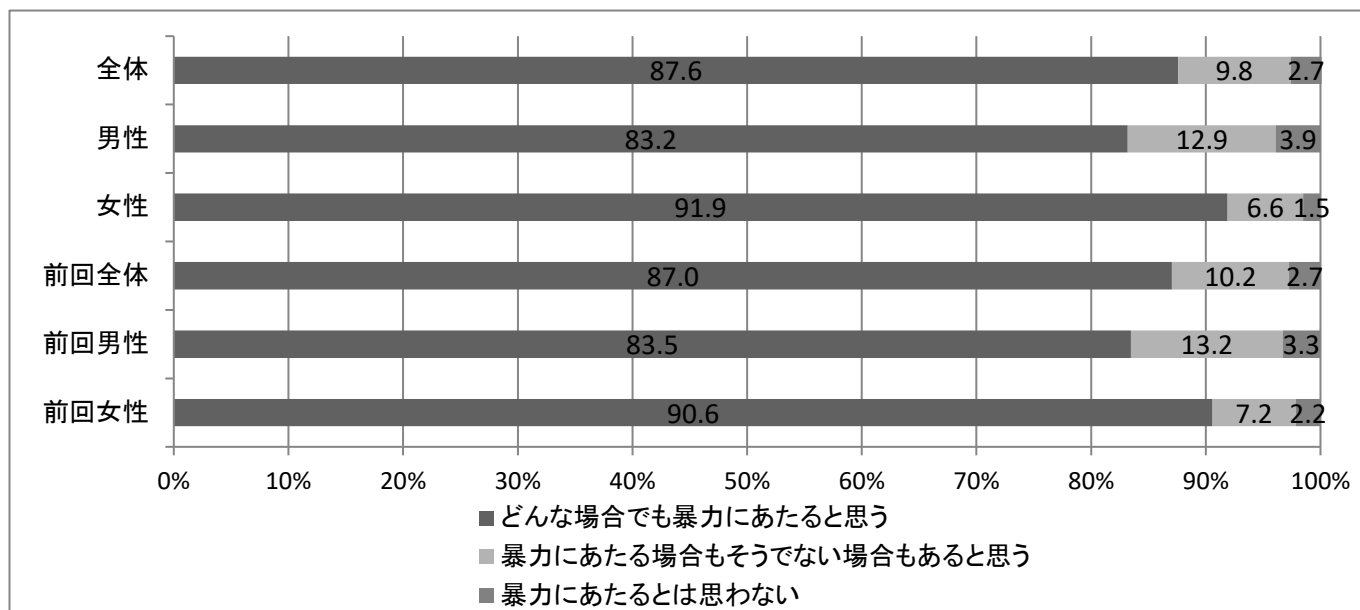
I 避妊に協力しないし、責任もとらない



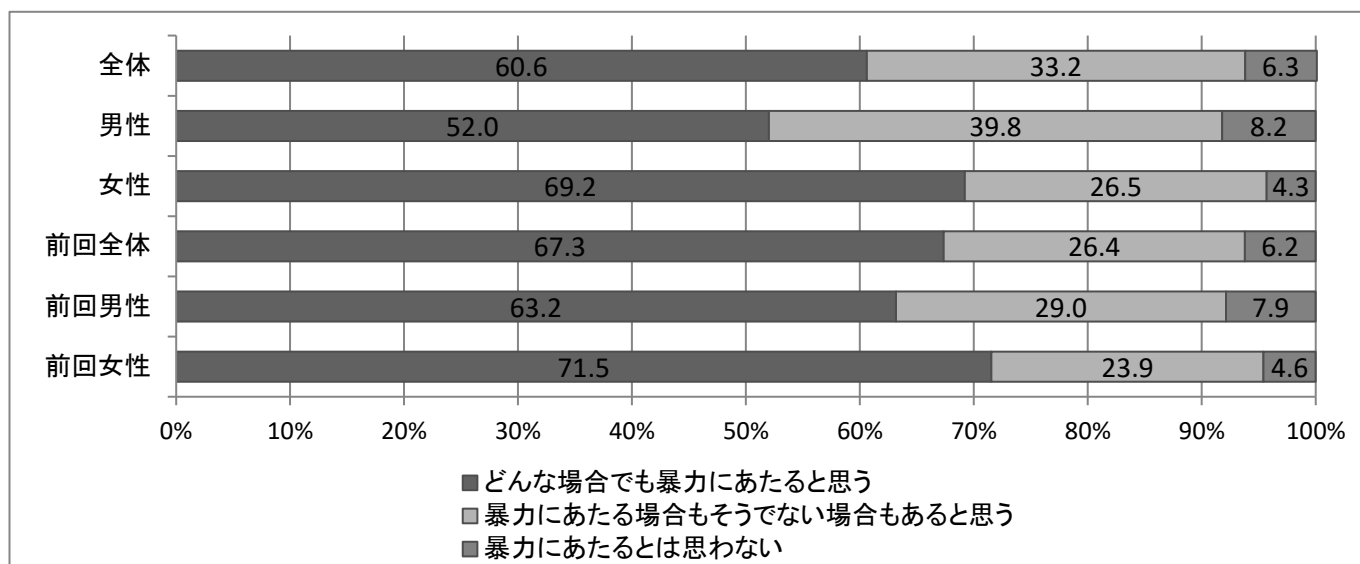
J 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



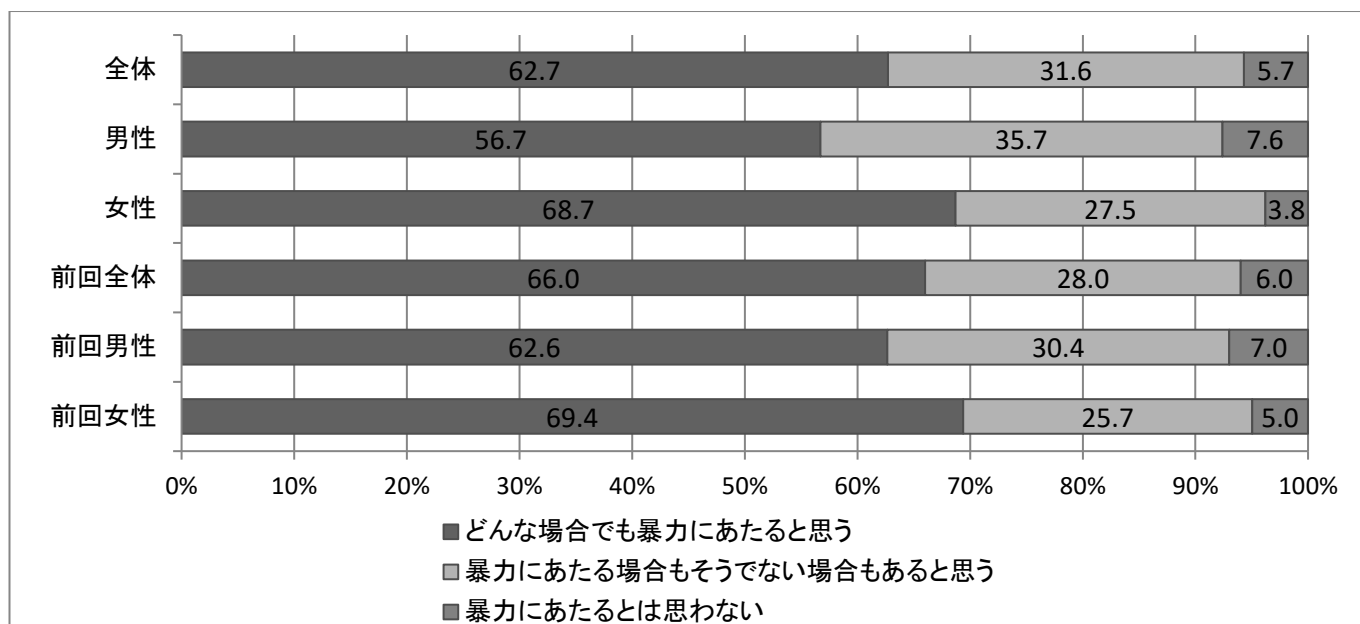
K 携帯電話のカメラで裸などの写真を撮られ、それを使って嫌な思いをさせられる



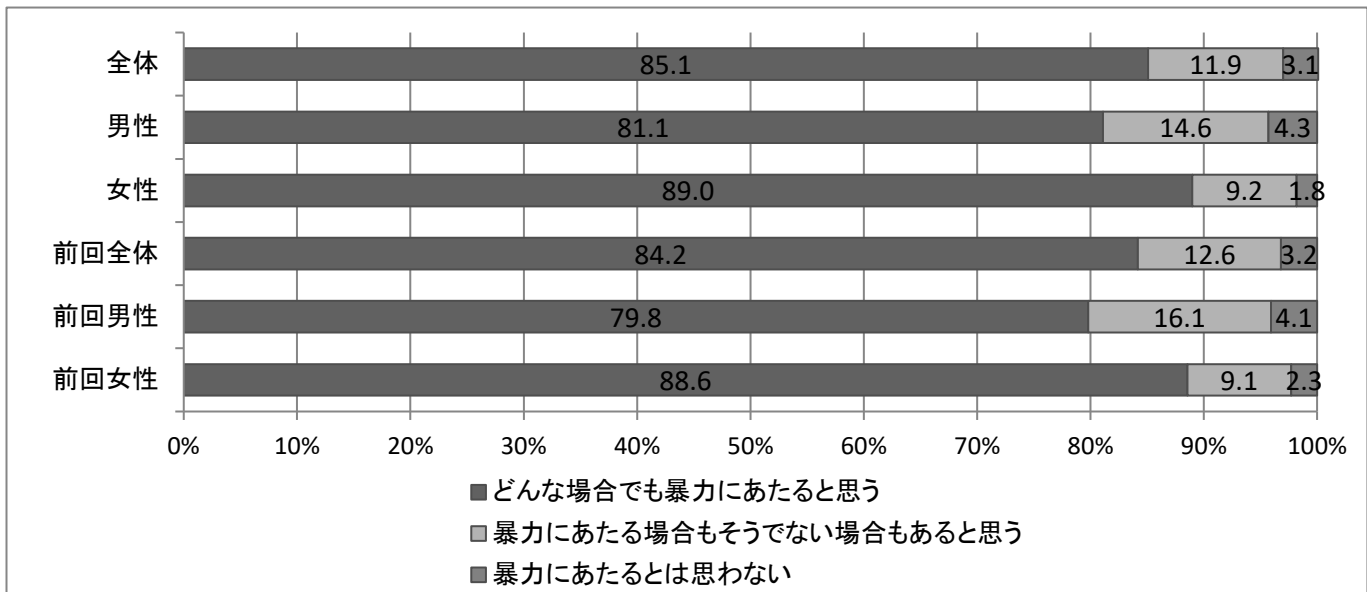
L 金の使い道を細かくチェックしたり、生活費を渡さない



M 行動や交友関係、電話、メールを細かく監視する



N 携帯電話を故意に壊されたり、データを破壊される

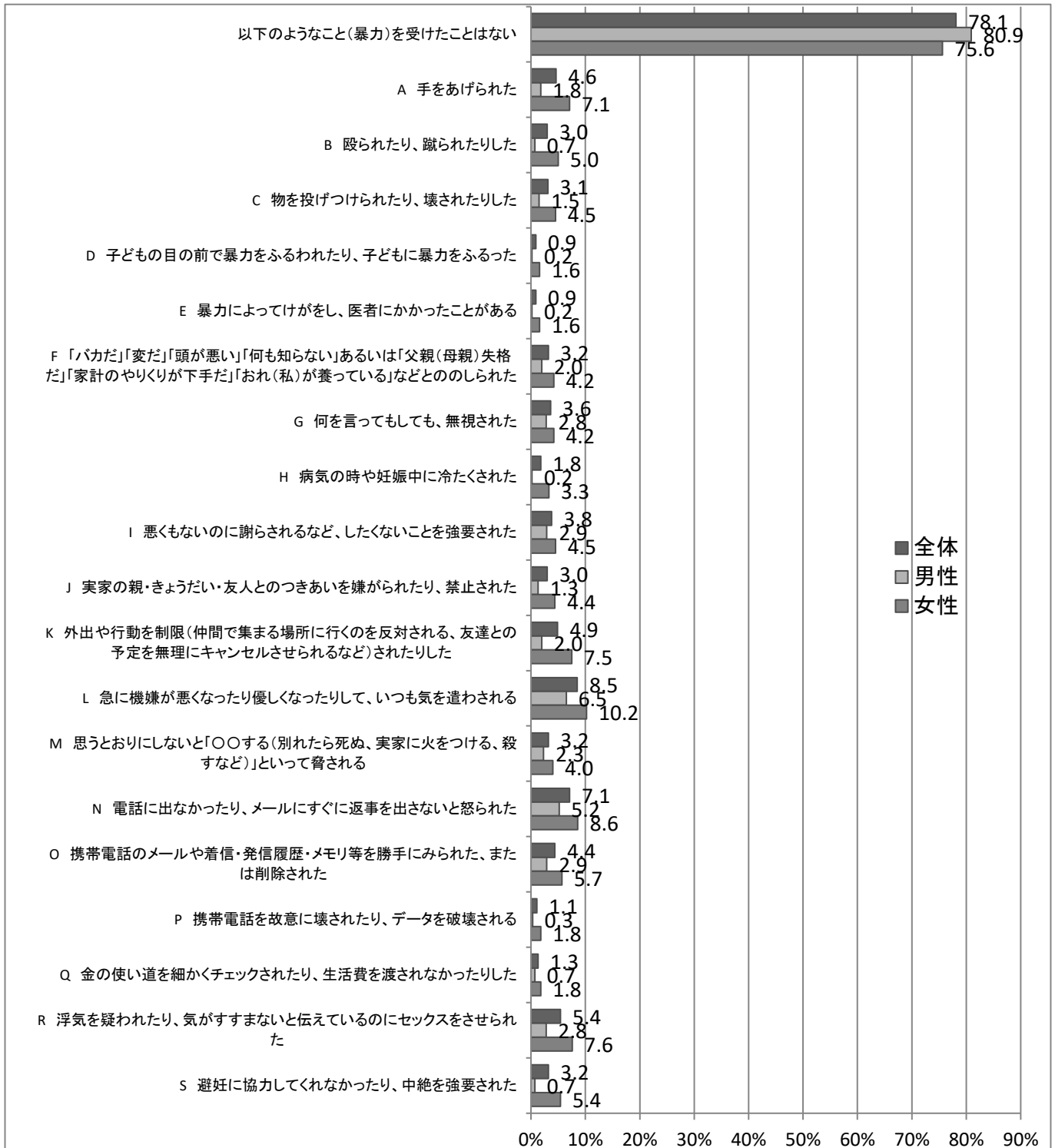


【被害経験の有無】

暴力を受けたことがある人（21.9%）のうち、「急に機嫌が悪くなったり優しくなったりして、いつも気を遣わされる」8.5%、「電話に出なかったり、メールにすぐに返事を出さないと怒られた」7.1%、「浮気を疑われたり、気がすすまないと伝えているのにセックスをさせられた」5.4%の順に高く、精神的及び性的な被害である。

（問）あなたはこれまでに交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

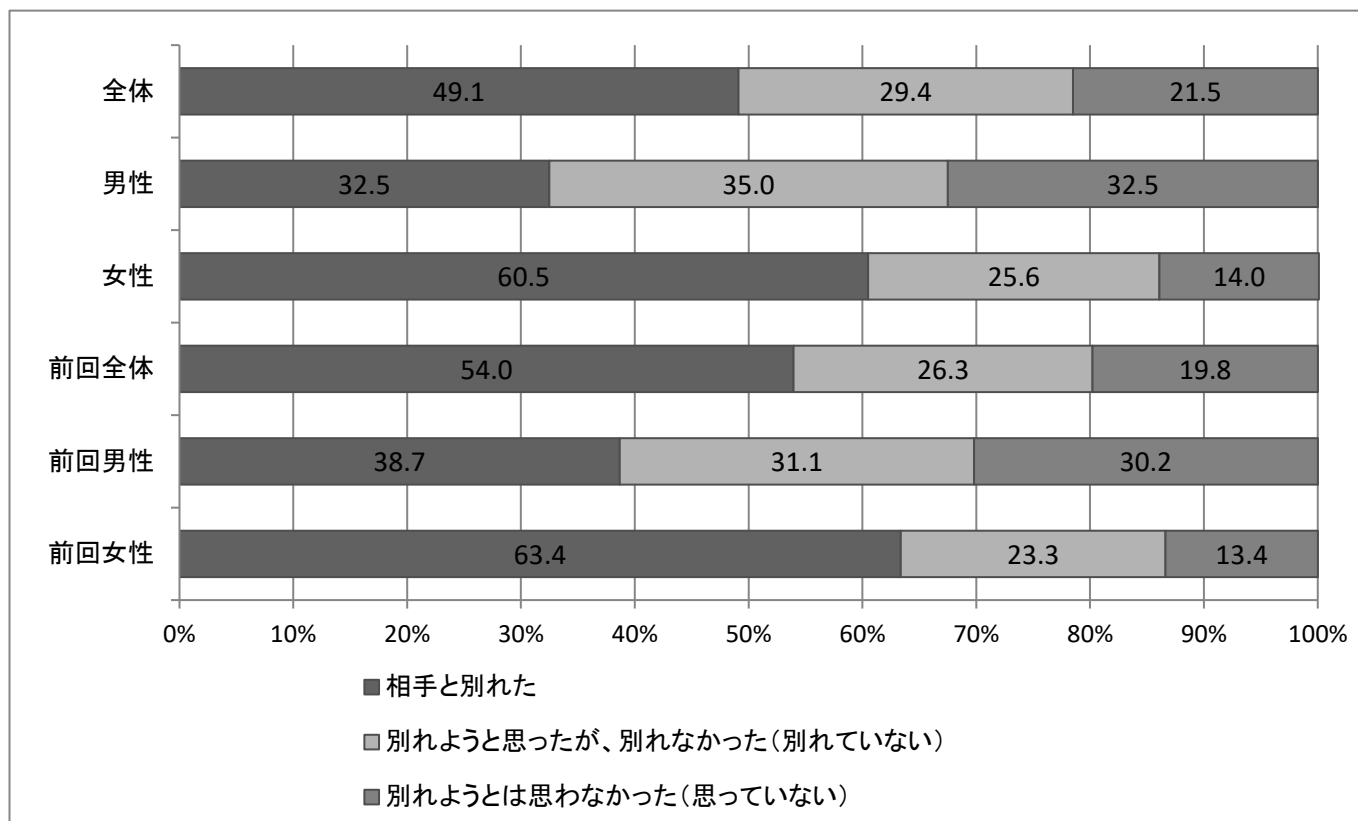
- A～E 殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた
- F～P 人格を否定するような暴言や、自分もしくは家族に加害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫、何を言っても無視するなどの精神的な嫌がらせを受けた
- Q 金の使い道を細かくチェックされたり、生活費を渡されなかったりするなど経済的な圧迫を受けた
- R～S 異性関係を疑われたり、気がすすまないと伝えているのにセックスをさせられる、避妊に協力してくれないなど性的な強要を受けた



【暴力を受けたとき、どうしたか】

「相手と別れた」が49.1%で最も高い。男女別では、女性は「相手と別れた」が60.5%である一方、男性は32.5%となっており、男女別の「相手と別れた」割合は、前回と同様にその差が大きい。

(問) そのような行為を受けたとき、どうしましたか。(直近のケース1つ)

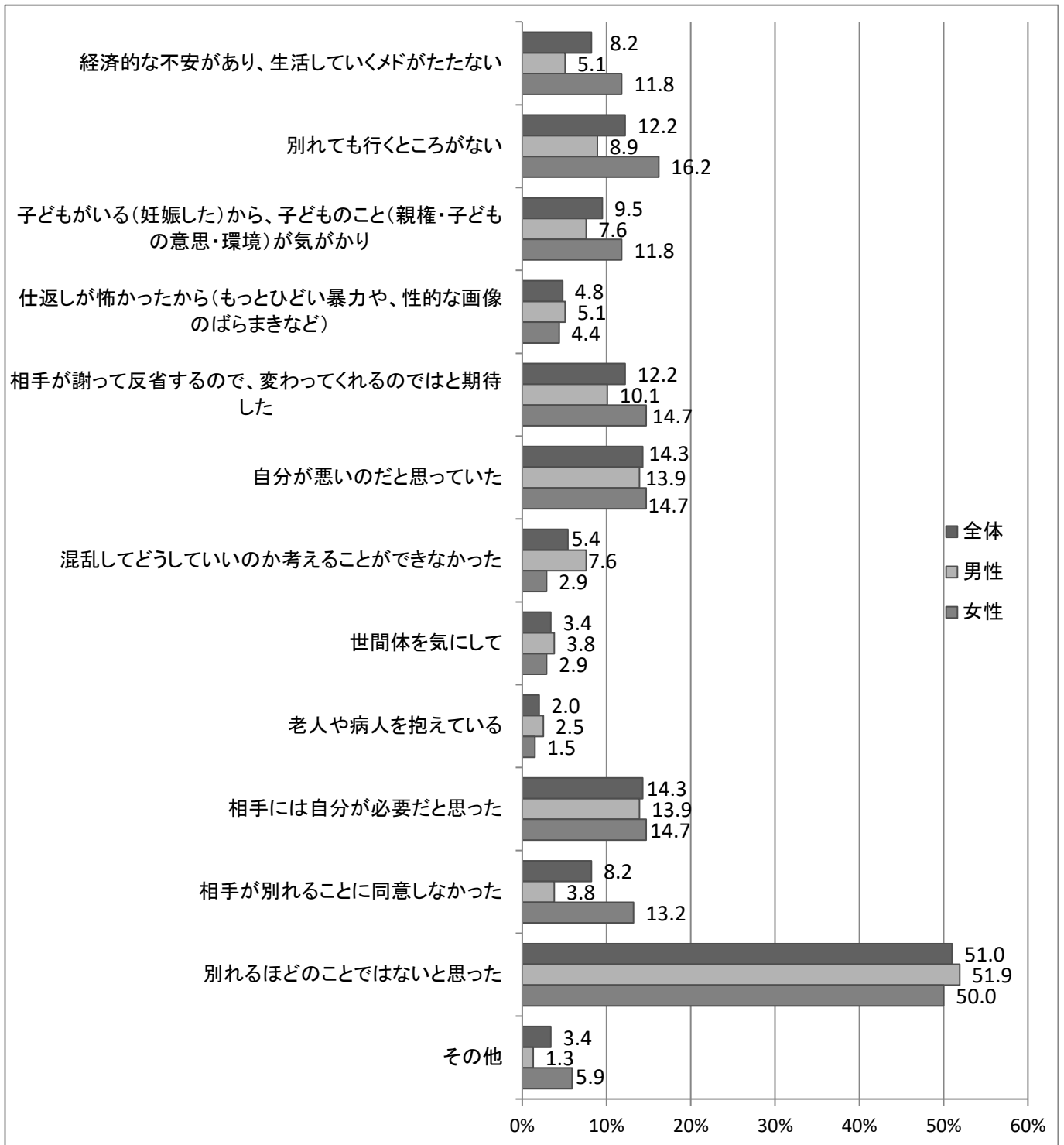


【相手と別れなかった理由】

「別れるほどのことではないと思った」が最も高く 51.0%、次いで「自分が悪いのだと思っていた」「相手には自分が必要だと思った」14.3%、「別れても行くところがない」「相手が謝って反省するので、変わってくれるのではと期待した」12.2%の順に高い。

男女別では、女性の方が5ポイント以上高いのは、「経済的な不安があり、生活していくメドがたたない」「別れても行くところがない」「相手が別れることに同意しなかった」となっており、男性の方が5ポイント以上高い項目はなかった。

(問) 交際相手と別れなかった理由は何ですか。(3つまで)

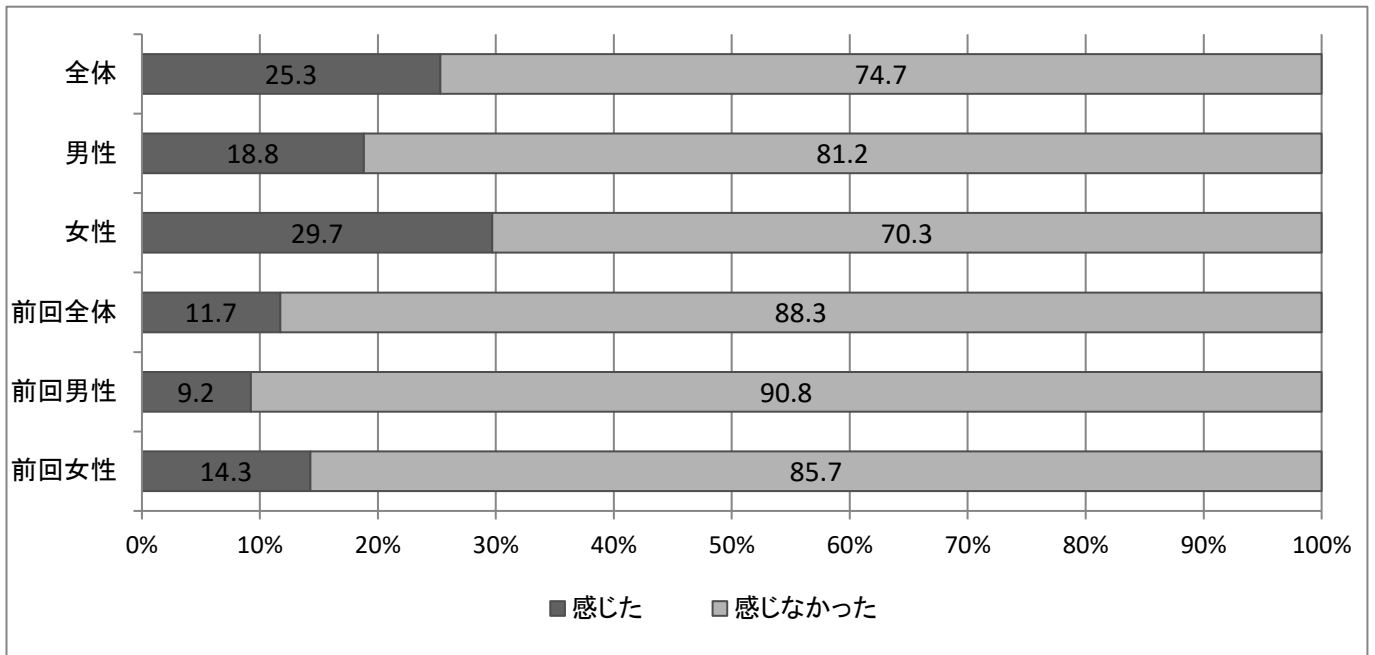


【被害の程度、医師に相談したか】

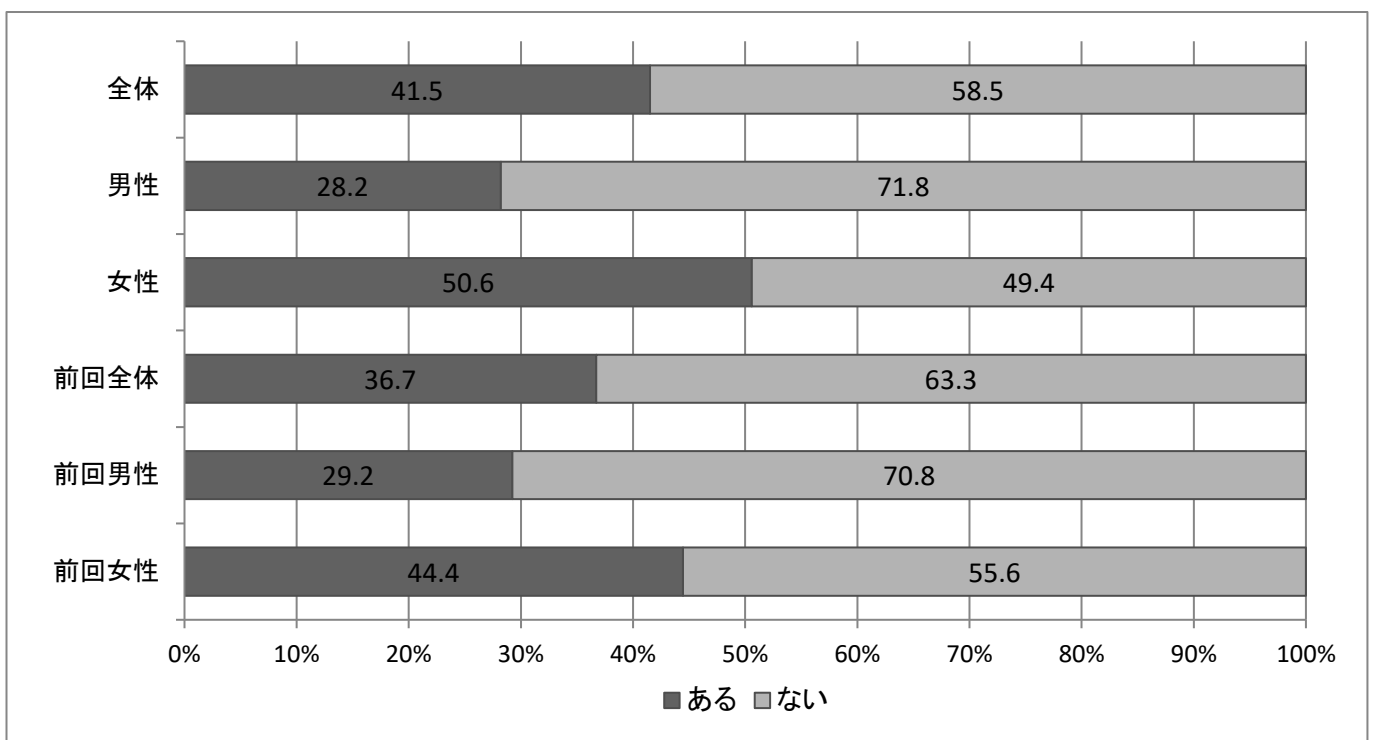
デートDVにより「命の危険を感じた」が25.3%（男性18.8%、女性29.7%）、怪我をしたり、精神的不調をきたしたことが「ある」が41.5%（男性28.2%、女性50.6%）で、ともに女性の方がかなり高い。

また、怪我や精神的不調で医師等の「診察等を受けたことがあり、行為について打ち明けたり相談をした」は17.5%（男性27.3%、女性13.8%）、「診察等を受けたことがあるが、行為について打ち明けたり相談はしなかった」は30.8%（男性39.4%、女性27.6%）で、「診察等を受けたことがある」割合は男性の方が高い。

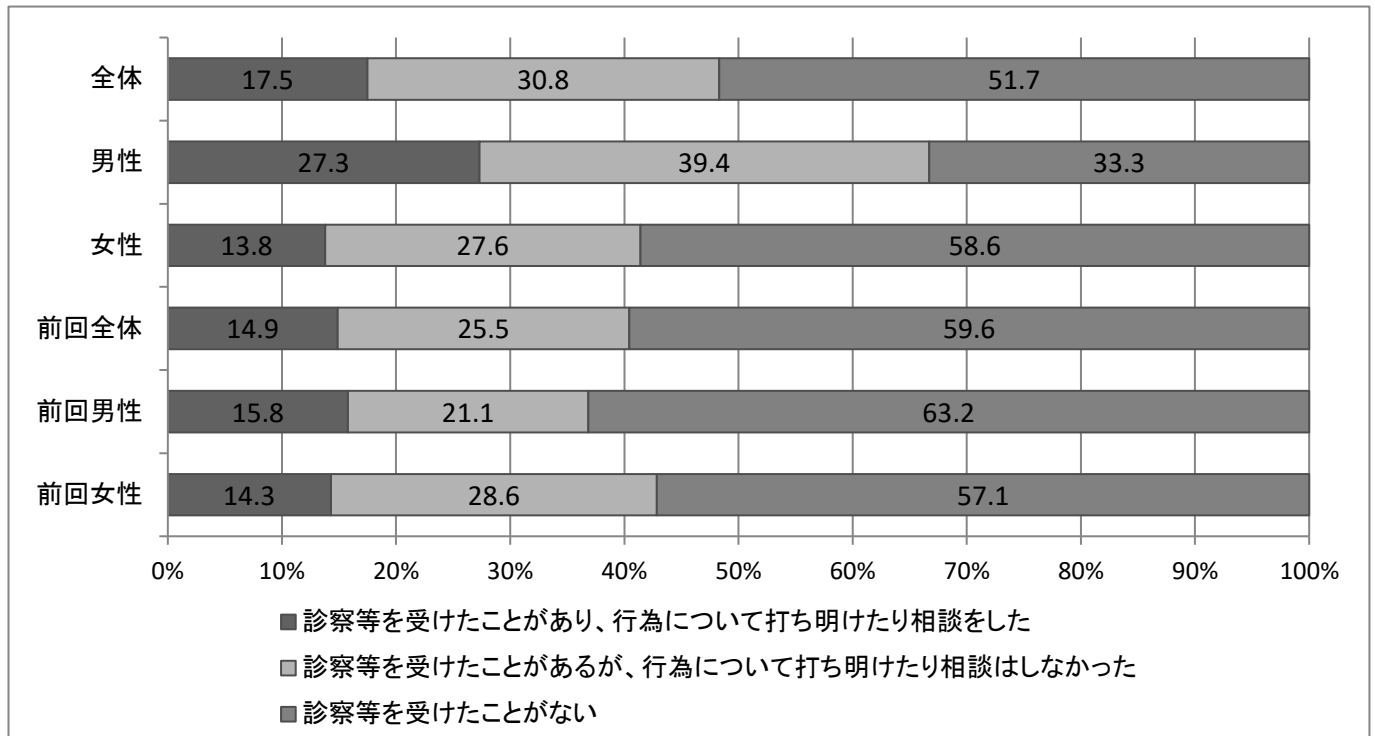
（問） これまでに交際相手からの行為によって命の危険を感じたことがありますか。



（問） これまでに交際相手からの行為によって怪我、精神的不調をきたしたことはありますか。



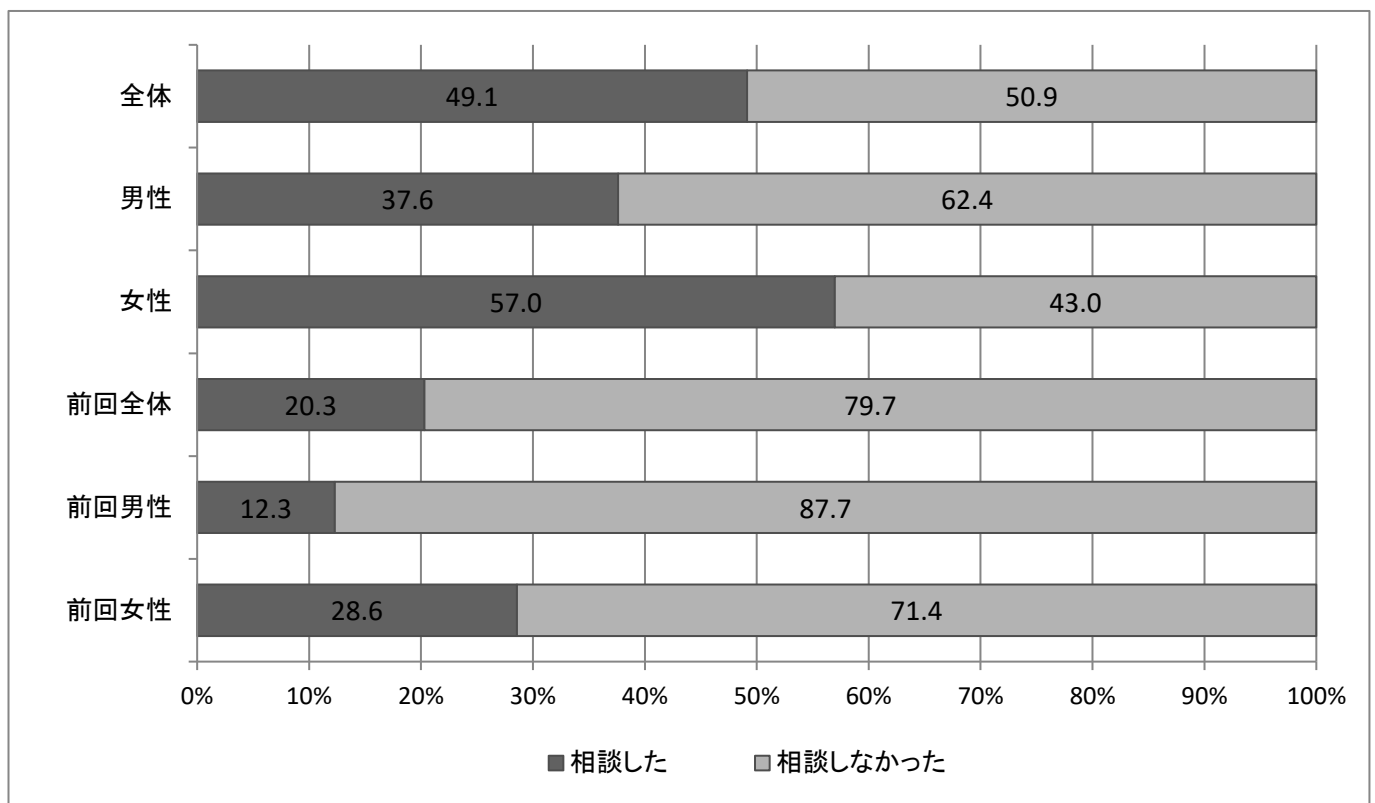
(問) その怪我や精神的不調について、医師の診察等を受けたことがありますか。またその際に、交際相手からの行為について医師等に打ち明けたり、相談したりしましたか。



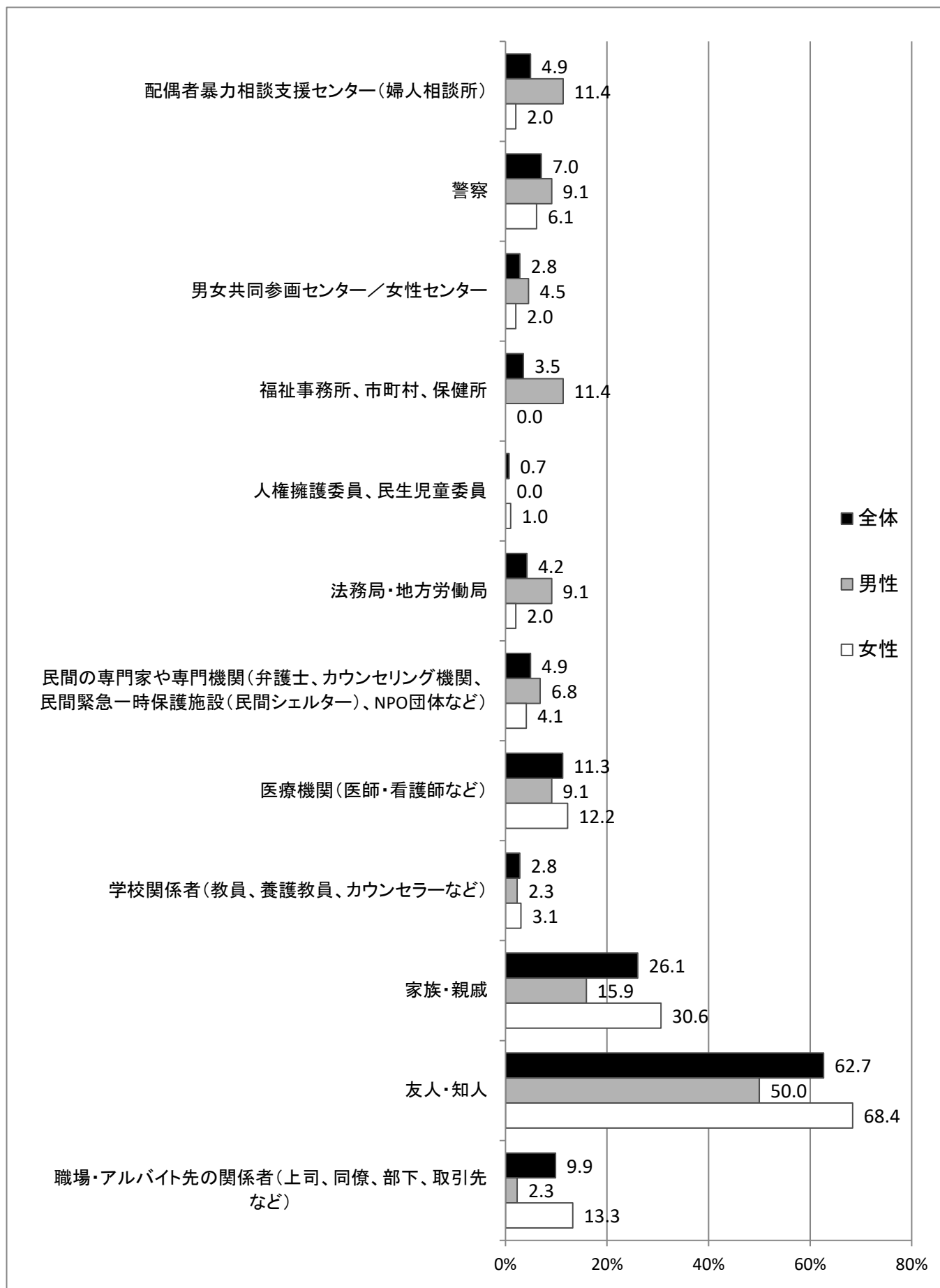
【被害を受けたときに相談したか、相談先】

被害を受けたときの相談先については、「相談しなかった」が50.9%で、男性は女性よりも19.4ポイント高い。相談した場合の相談先は、「知人・友人」62.7%で、「家族・親戚」26.1%と高い。

(問) これまでに交際相手から受けた暴力について、誰かに打ち明け、相談しましたか。



●どこ（だれ）かに相談した場合の相談先（「どこ（だれ）にも相談しなかった」を除く）（いくつでも）



【相談しなかった理由】

「相談するほどのことではないと思った」が最も高く 36.7%、次いで「相談しても無駄だと思った」21.8%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」19.0%、「自分にも悪いところがあると思った」17.7%、「他人を巻き込みたくなかった」17.0%の順で高い。

(問) どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(いくつでも)

